

# 中期目標の達成状況に関する評価結果

(中期目標期間終了時評価)

信州大学

令和5年3月

大学改革支援・学位授与機構

# 目 次

法人の特徴	1
-------	---

(法人の達成状況報告書から転載)

## 評価結果

《概要》	5
------	---

《本文》	6
------	---

《判定結果一覧表》	21
-----------	----

—《本文》における特記事項の冒頭「○」「●」について—

○：第3期中期目標期間4年目終了時評価において抽出されている特記事項※

●：第3期中期目標期間終了時評価において、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化として、追加で抽出されている特記事項

※ 新型コロナウイルス感染症下における対応については、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化の有無にかかわらず、令和2、3年度における取組や実績等を更新している。

## 法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

信州大学は、山々に囲まれた自然環境及び信州の歴史・文化・伝統を大切にし、人に優しい社会を目指します。さらに総合大学として世界に通じる教育・研究を行い、自ら創造できる人材を育成するとともに、地域・社会の発展に貢献します。

**教育** 信州の豊かな自然を教育に生かし、かけがえのない自然を愛し、新しい文化を創造して、社会のたゆまぬ発展に貢献できる高い知識と能力を備えた人材を育成します。

**研究** 自然との調和のもと、世界に通じる独創的研究を学際的に推進し、その成果を世界と地域に発信します。

**国際化** 学生・教職員の海外交流を活性化させ、グローバルな人材育成と世界的研究を目指します。

**地域貢献** 山岳環境で生まれた多様性ある信州の歴史と文化及び世界的な長寿県の特徴を生かし、地域の教育・健康・福祉の向上と産業発展に貢献します。地域に分散するキャンパスの強みを生かし、地域活性化の中核拠点を目指します。

**大学経営** 学長の強力なリーダーシップに基づき、あらゆる変化に柔軟に対応できる大学経営を推進します。

これらの目標のもと、先鋭領域融合研究群を中心に世界的な教育研究を行うとともに、多分野にわたる全国的な教育研究拠点としての活動を行います。

### 1. 教育

- 本学は長野県内の5つのキャンパスに8学部が展開しているが、全学部の1年生全員が松本キャンパスにおいて共通教育科目を受講することとしている。本学のカリキュラムは共通教育と専門教育の2本の柱からなっている。共通教育では、かけがえのない自然を愛し、人類文化・思想の多様性を受容し、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人を育成し、専門教育の基礎となる教育を施しつつ、専門教育と連携して、自ら具体的な課題を見出し、その解決に果敢に挑戦する精神とユニークな個性を育成することを目的としている。
- 本学は、優れた社会的課題解決能力を持つ人間力と豊かな人間性を備え、社会で指導的役割を果たす人材の育成を教育の中軸としており、その能力のひとつに「持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力」を掲げ、学士課程のディプロマ・ポリシーに定めるとともに、大学を挙げてエコキャンパスづくりに取り組んでいる。2018年から2021年までの「環境に優しい世界の大学ランキング (UI GreenMetric World University Rankings)」において、「環境教育・研究」「エネルギーと気候変動対策」等の指標で高い評価を得て、4年連続で国内1位を獲得している。

### 2. 研究

- 本学の強み及び特色のある研究領域に資源を集中的に配分することで研究を先鋭化させ、それぞれの研究領域を融合させイノベティブな研究を推進するため、研究体制の総合的な高度化及び持続可能な発展を図ること、また、その研究活動を教育に反映させることを目的として平成25年度に先鋭領域融合研究群を設置しており、世界最先端の研究グループと伍して戦えるよう、本学の特色ある研究を研ぎ澄まし、新たな融合研究領域の創造を目指している。また、グローバルな視野からの研究を更に前へと推し進めるため、海外から著名な研究

者を特別招へい教授として招へいし、本学の強みや特色を活かしながら研究群の研究力を強化するとともに、研究指導等を通して学生の教育や若手研究者の育成にも参画し、世界的な教育研究拠点を目指している。

### 3. 国際化

- 平成 27 年 4 月に設置したグローバル教育推進センター（平成 31 年度より「グローバル化推進センター」）が、全ての部局を「グローバル」という観点で横断的に束ねる中核組織となり、国内外の組織と連携協力して本学全体の教育研究のグローバル化を牽引し、国際通用力の強化を図っている。平成 28 年度から実施している「グローバル教育研究推進計画」では、同センターが中心となり、各部局及び関係部署と密接に協力して、大学全体のグローバル化、グローバル教育の導入と推進、正規留学生の受入強化と支援、学生の海外派遣強化及び国際共同研究の推進に取り組んでいる。
- 平成 29 年 7 月、マレーシアのプトラ大学（以下、UPM）に本学初の海外拠点となる「信州大学サテライト・オフィス in UPM」を設置して以降、フランス、タイ、ブラジル、中国及びドイツに同様の拠点を設置しており、国際共同研究の推進や学生の短期海外派遣プログラム実施、大学院生のモビリティ強化に繋がっている。

### 4. 地域貢献

- 県内に分散する 5 つのキャンパスそれぞれが、分野、特色を活かし地域と結びつき、自然環境の保全、人々の健康と福祉の向上、産業の育成と活性化、新しい文化の創造等、本学に求められている社会的使命を果たすため、地域の自治体や大学、金融機関、企業等と連携協定を結び、積極的な連携を行っている。
- 文部科学省「地〔知〕の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を活用した地域志向教育を実践、さらに「地〔知〕の拠点大学による地域創生推進事業（COC+事業）」における地域を活用したキャリア教育・就職支援の強化、その後継事業となる「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業（COC+R 事業）」により、学問と社会・地域のつながりに対する深い経験と理解力を備えた人材を地域とともに育成し、地域社会に還元している。
- 日本経済新聞社が国公私立全国 755 大学を対象に 2018 年度の調査を行った「大学の地域貢献度調査 2019」において、本学は総合 1 位を獲得している。
- 令和元年に長野県と覚書を締結し、長野県県内に「信州大学・長野県連携室」を設置したこと、及び長野県知事と学長による大学改革への協力についての対話を実施したことで、長野県と強固な関係を築くことができおり、本学は地域活性化の中核拠点として、地域の教育・研究・医療等のさらなる発展を目指している。

#### [個性の伸長に向けた取組（★）]

- 全学横断特別教育プログラムの実施による高度キャリア人材の育成  
全学横断特別教育プログラムは、意欲のある学生が、自らの専門領域（学部等）での学修に加えて、分野を越えた知や分析視点を獲得し、学術に対する深い理解と経験を養う機会を提供するために開設した。  
地域社会の現場（ローカル）が抱える問題を的確に分析し、革新的（イノベーター）な解決策を考え実践するための力を身に付けた人材を育成する「ローカル・イノベーター養成コース」を平成 29 年度から、海外・国内におけるグローバル環境で組織のコア人材として活躍できる素養、能力、教養を身に付け、主体的に協働できる人材を育成する「グローバルコア人材養成コース」を平成 30 年度から、環境分野の幅広い課題の基礎知識を身に付け、特に国際社会の共通の目標である SDGs や持続可能な循環共生型の社会構築を意識して課題を解決できる人材を育成する「環境マインド実践人材養成コース」を平成 31 年度からそれぞれ開始している。また、令和 3 年度には、あらゆる職業分野において求められている新たな技術シーズの開発及びそれらを活用したソリューションを提供するための「データサイエンティスト人材」の養成を

目的として、新たに「ストラテジー・デザイン人材養成コース」及び「ライフクリエイター養成コース」を開始した。

本プログラムでは、インターンシップやアクティブ・ラーニング等の実践学修・実践活動に参画させ、社会の未来を創造するための実践力を持った高度キャリア人材の育成を実践している。

(関連する中期計画 1-1-1-2, 1-1-1-3, 1-2-1-1, 3-1-1-1, 4-1-1-1)

○ ゼミ形式での初年次教育の実施

信州大学版初年次セミナーである「大学生基礎力ゼミ」は、1年生に対し、高校から大学へのスムーズな移行を支えるため、大学に必要な知識やスキルをグループワークを通して確実に修得させることを目的に設計し、令和元年度まで実施した。具体的には、予習・復習、レポートの書き方、マナー等や、それを支える生活習慣の確立や人間関係の維持、支援を受ける場所や方法について学ばせ、主体的に生活し学ぶとはどういうことかについて体験的な理解と当事者意識を持たせている。令和2年度からは、共通教育新カリキュラムにおいて、初年次教育科目「学術リテラシー」を新設し、主体的な学修姿勢の修得を促している。

また、豊かな人間性を培い、コミュニケーション能力と論理構成力を高めるとともに、信州大学の学生としての自覚を養うことを目的として演習形式の科目を実施しており、全ての新入生が受講できる体制を整えている。

(関連する中期計画 1-1-1-1)

○ 先鋭領域融合研究群による特色ある研究の推進

本学の特色ある研究領域に学内資源を集中配分した組織である先鋭領域融合研究群を設置し、強みを結集し独創を生む環境と融合知を形成する柔軟な組織を構築し、先鋭領域融合研究群を中心とした研究を推進している。

(関連する中期計画 2-1-1-2)

○ Rising Star 制度による若手研究者の育成

先鋭領域融合研究群の優れた若手研究者を Rising Star 教員として認定し、研究費支援や研究時間の確保等、高度研究専念を行う上での研究環境を確保するとともに、手当の支給、早期昇進の機会を与える等人事面で優遇することで、新たな研究領域の創生に挑戦できる人材を育成している。

(関連する中期計画 2-1-1-2)

○ URA による学術研究・産学官地域連携活動の推進

次代の本学における研究の分野融合や大型化を促進するため、リサーチ・アドミニストレーター (URA) の推薦した研究プロジェクトに対して研究費の支援を実施した。

(関連する中期計画 2-1-1-1)

○ 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)

平成 27 年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)」の採択を受け、平成 28 年 4 月にキャリア教育・サポートセンターを設置し、就職支援に継続的に取り組むとともに、キャリア形成に関する授業やインターンシップの支援等、キャリア教育の充実を図った。

(関連する中期計画 3-1-1-1)

○ 特別選抜留学生プログラムによる留学生受入

正規留学生としての入学を希望する海外の高校生等を対象に予備教育を行う「特別選抜留学生プログラム」を継続的に運用し、正規留学生の受入数を増加させている。

(関連する中期計画 4-1-1-1)

[戦略性が高く意欲的な目標・計画(◆)]

- 先鋭領域融合研究群を中心に世界的な研究を推進し、世界水準の国際教育研究拠点を形成するために、優れた若手研究者を Rising Star 教員に認定し育成するとともに、学術研究院の学系や先鋭領域融合研究群の各研究所を超えた研究分野（体内埋め込み型歩行アシストサイボーグ技術の開発等）の異種融合（クロス・ブリード）により新たな研究領域の創生に挑戦し、論文数や研究成果に基づく受賞状況等が考慮された定期的な外部評価により研究所の見直しを行う。

(関連する中期計画 2-1-1-2)

## 評価結果

### 《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、信州大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

### ＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を 上げている	【4】 優れた実績を上げ ている	【3】 達成して いる	【2】 十分に達 成しているとはい えない	【1】 達成して いない
<b>I 教育に関する目標</b>	【3】 達成している					
1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】 達成している		2		1	
2 教育の実施体制等に関する目標	【3】 達成している			2		
3 学生への支援に関する目標	【4】 上回る成果が 得られている		1			
4 入学者選抜に関する目標	【3】 達成している			1		
<b>II 研究に関する目標</b>	【5】 顕著な成果が 得られている					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】 上回る成果が 得られている		1			
2 研究実施体制等に関する目標	【4】 上回る成果が 得られている		1			
<b>III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標</b>	【4】 上回る成果が 得られている					
	なし		1	1		
<b>IV その他の目標</b>	【3】 達成している					
1 グローバル化に関する目標	【3】 達成している			1		

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

## 《本文》

### I 教育に関する目標（大項目1）

#### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

#### 2. 中期目標の達成状況

##### (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、2項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、1項目が「中期目標を十分に達成しているとはいえない」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
【1】 学士課程においては、全学的な指針のもとで教員・学生同士の人的交流を重視した学士課程教育を展開し、次代を切り拓きグローバルに活躍できる人材を育成する。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> <li>中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</li> <li>また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「ゼミ形式での初年次教育の実施」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</li> </ul>
	《特記事項》		
	(優れた点) ○ ゼミ形式での初年次教育の実施 信州大学版初年次セミナーとして、1年生に対し、高校から大学へのスムーズな移行を支えるため、大学で必要な知識		



	<p>やスキルをグループワークを通して修得させることを目的に、大学での学び方（予習・復習、レポートの書き方やマナー）等について「大学生基礎力ゼミ」を実施している。また、豊かな人間性を培い、コミュニケーション能力と論理構成力を高めるとともに、信州大学の学生としての自覚を養うことを目的に、グループワークやフィールドワーク等を重視した「教養ゼミナール」を実施しており、全ての新生が受講できる体制を整えている。これらの取組みの教育効果を分析しており、その分析によると留年率の約50%の低下が認められている。（中期計画1-1-1-1）</p>		
小項目 1-1-2	判定		判断理由
<p>【2】大学院課程においては、教育課程の組織的展開を図り、高度専門職業人としての専門的能力に加え、幅広い領域の知識を備えた、現代のグローバル社会で指導的役割を果たしうる人材を育成する。</p>	<p>【4】</p>	<p>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</li> <li>・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「三層構造の大学院共通教育の編成」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</li> </ul>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(優れた点)</p> <p>○ 三層構造の大学院共通教育の編成          大学院課程において、各研究科専攻の専攻共通科目、各研究科の研究科共通科目及び大学全体の大学院共通教育科目の三層構造の大学院共通教育の枠組を構築し、専門分野の深い知識・技能に加え、専門分野近傍の領域の知識が身に付く教育課程を編成している。また、研究者倫理教育については、予定より1年前倒しの平成30年度から全研究科へ導入している。（中期計画1-1-2-1）</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 山岳科学教育プログラムへの参画          山岳地域を取り巻く環境問題の解決や山岳生態系の持続的管理等、山岳域が直面する諸課題の解決に資する幅広い視野と深い知識を備えた高度専門人材の育成を目的に、信州大学・筑波大学・静岡大学・山梨大学の4大学が連携し、山岳科学教育プログラムを設置している。（中期計画1-1-2-1）</p>			

小項目 1-1-3	判定		判断理由
<p>【3】成績評価及び卒業・修了認定の更なる厳格化を進め、教育の質を保証する仕組みを整備し、学位授与の方針に合致する人材を輩出する。</p>	<p>【2】</p>	<p>中期目標を十分に達成しているとはいえない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。</li> <li>・ また、「教育学部卒業生に占める教員就職率の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目を十分に達成しているとはいえない。</li> </ul>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(改善を要する点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育学部卒業生に占める教員就職率の状況                      教育学部卒業生に占める教員就職率を第2期中期目標期間中の71%から向上させるという目標については、平成28年度70.09%、平成29年度67.28%、平成30年度68.34%、令和元年度64.04%、令和2年度65.20%、令和3年度64.60%となっており、一定程度の取組は行われているものの、目標を達成していない。(中期計画1-1-3-3)</li> </ul> <p>※ 中期計画1-1-3-3については、長野県内小・中・特別支援学校の正規の新規採用者における信州大学出身者の占める割合において、当該県における採用状況という外的環境要因等が大きく変化したため、このような状況を勘案して「改善を要する点」としては指摘しない。</p>			

(2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目 1-2)

【評価結果】 中期目標を達成している

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-2-1	判定	判断理由
<p>【4】 多分野の教員が所属する学術研究院を活用して教員を配置し、効果的な教育プログラムを展開するとともに、教育企画機能及び教育実施機能の充実により、教育の質を向上させるシステムの高度化を図る。</p>	【3】	<p>中期目標を達成している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</li> </ul>
	<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 環境マインドの醸成 環境分野の幅広い課題の基礎知識を身に付け、特に国際社会の共通の目標である SDGs や持続可能な循環共生型の社会構築を意識して課題を解決できる人材の育成を目指し、全学横断特別教育プログラム「環境マインド実践人材養成コース」を令和元年度に開講している。なお、「環境に優しい世界の大学ランキング (UI GreenMetric World University Rankings)」において、2年連続で国内1位を獲得している。(中期計画 1-2-1-1)</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症下の教育 新型コロナウイルス感染症による影響下においても、学生の学習機会を確保するため、従前から全ての授業を LMS 上で公開できる環境整備が整っていたことから、それを利用し、オンライン授業になっても、動画配信、資料の提示、課題提出、受講生とのやりとり等を実施している。また、Google Meet や Zoom 等の遠隔会議システムを用いた同期型、学習管理システム (eALPS) を利用した非同期型、対面も含めたハイブリッド型等、授業の形態や特性に応じた方法で実施している。</p>	

小項目 1-2-2	判定		判断理由
【5】主体的学修を促すため、教育・学修環境の整備を実施し、教育の質を向上させる。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。
		《特記事項》	
	該当なし		

**(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 1-3)**

<p>【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている</p> <p>(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。</p>
---

小項目 1-3-1	判定		判断理由
【6】学生の多様なニーズに対応したきめ細かな支援を実施し、学生に充実したキャンパスライフを提供する。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</li> <li>・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「障害学生支援体制の充実」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</li> </ul>
		《特記事項》	
	(優れた点)		<p>○ 障害学生支援体制の充実</p> <p>信州大学障害学生支援マニュアルを作成し、マニュアルに基づく障害学生の支援体制を整備し、就職支援や学生サポーターの養成等を実施している。また、全教職員及び学生を対象とした松本キャンパス内のバリア調査を実施し、マップ案の検証を兼ねた学生の車いす体験イベントを行い、令和元年度に松本キャンパス内のアクセシビリティ (バリアフリー) マップを作成している。(中期計画 1-3-1-2)</p>

	<p>(特色ある点)</p> <p>○ ピアサポ@Lib の設置</p> <p>従来からの図書館と全学教育機構による中央図書館ラーニング・アドバイザー制度を、体系的な学修支援サービス「ピアサポ@Lib」として平成 30 年度に再編・拡充し、ラーニング支援部門とライティング支援部門の 2 部門体制で学修相談やレポートの書き方指導等を実施している。(中期計画 1-3-1-1)</p>
--	---

**(4) 入学者選抜に関する目標 (中項目 1-4)**

<p><b>【評価結果】</b> 中期目標を達成している</p> <p>(判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が 1 項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 1-4-1	判定	判断理由
【7】入学者受入方針で求める人材を適正に選抜するための改革を進める。	【3】	中期目標を達成している
	<p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>	
	<p>《特記事項》</p> <p>該当なし</p>	

## Ⅱ 研究に関する目標（大項目2）

### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る顕著な成果が得られている

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、2項目が「中期目標を上回る成果が得られている」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

### 2. 中期目標の達成状況

#### （1）研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目2-1）

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
【8】 独創的研究の基に本学の強みや特色である「エネルギー複合材料」, 「繊維・ファイバー工学」, 「水浄化・水循環再利用」, 「生命科学」, 「山岳科学」の分野からなる先鋭領域融合研究群を中心に、イノベーション創出に向けた研究を推進し、社会の持続的発展に貢献する。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> <li>中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</li> <li>また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「先鋭領域融合研究群による研究の推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</li> </ul>
	《特記事項》		
	(優れた点) ○ 先鋭領域融合研究群による研究の推進 先鋭領域融合研究群を平成31年度に3つの研究所（先鋭材料研究所、バイオメディカル研究所、社会基盤研究所）及び3つの研究拠点（国際ファイバー工学研究拠点、山岳科学研究拠点、航空宇宙システム研究拠点）に改組し、その活動として、新素材の開発や体外装着歩行アシストロボット、体内埋め込み型歩行アシストロボット・プロトタイプの開発		

	<p>等、新たなイノベーション創出に向けた研究を推進し、社会の持続的発展に貢献している。(中期計画 2-1-1-2)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 科研費採択増に向けた支援</p> <p>科学研究費助成事業の採択率・採択件数増を目的とした研究費支援や全件アドバイザー制度(信州大学基盤研究支援事業)等の取組により、平成 31 年度の科研費の獲得件数及び保有率が、平成 27 年度に比べて、獲得件数で 34 件、保有率で 2.5%増加している。(中期計画 2-1-1-1)</p> <p>○ Rising Star 制度による若手研究者の育成</p> <p>先鋭領域融合研究群の優れた若手研究者を Rising Star 教員とし早期昇進させ、研究費支援や研究時間の確保等、高度研究専念を行う上での研究環境を確保するとともに、手当の支給、早期昇進の機会を与える等、人事面でも優遇し、新たな研究領域の創生に挑戦できる人材を育成している。(中期計画 2-1-1-2)</p> <p>○ コア技術を通じた研究の推進</p> <p>信州大学の特長あるコア技術「フラックス法」により育成した無機結晶及び関連材料を、浄水デバイス、生体適合デバイス、リチウムイオン二次電池等に適用して事業化を目指し、研究開発を遂行している。(中期計画 2-1-1-2)</p>
--	---

(2) 研究実施体制等に関する目標 (中項目 2-2)

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が 1 項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 2-2-1	判定		判断理由
<p>【9】 研究者が研究を円滑に実施する体制を構築し、研究の質を向上させる。</p>	<p>【4】</p>	<p>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</li> <li>・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「学術研究・産学官連携推進機構の設置」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</li> </ul>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(優れた点)</p> <p>○ 学術研究・産学官連携推進機構の設置                      平成 28 年度に学術研究・産学官連携推進機構 (SUIRLO) を設置し、大学の实情に即した研究・産学官連携支援体制を構築している。また、各学部には URA を配置するなど、基礎研究段階から産学官連携による実用化段階までの研究活動を総合的にサポートするための体制整備を行っている。また、共同利用可能研究環境の改善などにより共同研究受入数で約 60%、Top10%論文の割合も約 10%増加している。(中期計画 2-2-1-2)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ インキュベーション施設の活用                      国際科学イノベーションセンターのドライルームについて大学外の研究機関や企業等も利用できるような貸付規程を整備し、同センターのレンタルスペースの PR を継続的に行う等、各インキュベーション施設が入居率向上に努めた結果、平成 27 年度と比較して、入居率が大幅に向上し、平成 31 年度末には 6 施設中 5 施設が 90%以上、うち 3 施設は入居率</p>			



	<p>100%を達成している。(中期計画 2-2-1-2)</p> <p>○ SUIRLO のコーディネート人材の派遣</p> <p>長野県との連携協定に基づき、令和元年度に信州大学・長野県連携室に関する覚書を締結し、長野県庁内に信州大学・長野県連携室を設置し、学術研究・産学官連携推進機構 (SUIRLO) のコーディネート人材を当該連携室に配置している。(中期計画 2-2-1-2)</p>
--	---

### Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

#### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目) 2項目のうち、1項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

#### 2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定		判断理由
【10】 地域の知の拠点として大学の機能強化を図り、地域の諸課題の解決及び地域を支える人材育成等を行い、地域の活性化につなげる。	【4】	中期目標を達成し、優れた実績を上げている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</li> <li>・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「全学横断特別教育プログラムの実施」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</li> </ul>
	≪特記事項≫ (優れた点) ○ 地域課題解決型人材の育成 地(知)の拠点整備事業に採択された「信州を未来へつなぐ、人材育成と課題解決拠点「信州アカデミア」事業の社会人向けの次世代人材育成として「地域戦略プロフェッショナル・ゼミ」を実施し、その成果を活かしたプログラムが、観光庁の産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業(ユニバーサルフィールド・コンシェルジュ養成講座)と中小企業庁の地域中小企業人材確保支援等事業(信州100年企業創出プログラム)へ採択されている。なお、ユニバーサルフィールド・コンシェルジュ養成講座では、宿泊業など観光業に従事している15名を募集し、全6回の講座を実施し、講座の修了認定を得た14名の受講生に修了証を授与している。(中期計画3-1-1-1)		

	<p>○ 全学横断特別教育プログラムの実施 全学横断特別教育プログラム「ローカル・イノベーター養成コース」による人材育成を行い、令和元年度で15名の修了者を得ている。なお、これらの取組が評価され、地（知）の拠点整備事業採択校に対する評価において、平成28年度及び29年度でS評価を獲得している。（中期計画3-1-1-1） （特色ある点）</p> <p>○ 課題解決プロジェクトの推進 「リビング・ラボ」モデルによる課題解決プロジェクトとして、「健康長寿」「防災減災」の課題解決のための活動「機能性農産物等の食による健康都市づくり支援事業」及び「松本発の住民参加型の医工連携ものづくりモデルの構築」を実施している。（中期計画3-1-1-1）</p>	
<p>小項目 3-1-2</p>	<p>判定</p>	<p>判断理由</p>
<p>【11】イノベーションの創出と社会の持続的な発展のために、産学官連携や社会貢献を通じた活動を展開する。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標を達成している</p> <p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p>
<p>《特記事項》</p>		
<p>（特色ある点）</p> <p>○ アドバンスト・リサーチ・アシスタントの新設 多様で優秀な大学院博士課程人材を持続的に育成するため、通常のリサーチ・アシスタントより給与面で優遇したうえで共同研究に主体的に参画させる「アドバンスト・リサーチ・アシスタント(ARA)」雇用制度を平成30年度に新設し、産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム（OPERA）から導入を開始して平成30年度は2名、令和元年度は3名を採用している。（中期計画3-1-2-1）</p> <p>○ 連携協定に基づく寄附講座の設置 軽井沢町との連携協定に基づき、社会基盤研究センターに寄附講座「軽井沢医療安全法学－健康推進地域を目指して（平成30年度から令和5年度、総額2億5,000万円）」を設置している。（中期計画3-1-2-1）</p> <p>○ アクア・イノベーション拠点の進展 世界の豊かな生活環境と地球規模の持続可能性に貢献するアクア・イノベーション拠点（COI 拠点）の社会実装に向け、令和元年度に福岡県のウォータープラザ北九州内に新た</p>		

	<p>な試験プラントを開設し、実用化に向けたコストダウン等の実証試験を行っている。また、COI 拠点を中心にして得られた知識と成果について応用展開を実施する基盤組織としてアクア・ネクサスカーボンプラットフォーム (AxC-PF) を設立している。なお、これらの活動により大学の地域貢献度ランキング (日本経済新聞社発行『日経グローバル』) において、平成 29 年度に総合 2 位、令和元年度は総合 1 位を獲得した。(中期計画 3-1-2-1)</p>
--	---

#### IV その他の目標（大項目 4）

##### 1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

##### 2. 中期目標の達成状況

###### （1）グローバル化に関する目標（中項目 4-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由	
【12】 グローバル化する社会に対応するため、本学の教育研究の国際通用性を向上させる。	【3】	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。	
		《特記事項》		
		（特色ある点） ○ 海外派遣学生の増加 海外・国内におけるグローバル環境で、組織のコア人材として活躍・協働できる人材の育成を目指す全学横断特別教育プログラムとして「グローバルコア人材養成コース（Basicコース及びAdvancedコース）」を開講し、その結果、短期派遣を含めた大学全体の海外派遣学生数が、平成27年度311名に対し、令和元年度522名と増加している。（中期計画4-1-1-1） ○ 留学生向けの特別選抜試験 海外の高校生等を対象に特別選抜留学生プログラム及び私費外国人留学生特別入学者選抜試験（予備教育修了者コース）を実施し、平成28年度から平成31年度までに21名の学生が正規留学生として入学している。（中期計画4-1-1-1）		

	<p>○ グローバル教育研究の推進</p> <p>海外拠点を活用した国際共同教育・研究プロジェクトスタートアップ支援事業の実施により、教員や学生の交流及び海外拠点の形成が促進され、リール大学（フランス）に信州大学サテライトオフィスである国際連携ラボ（LIA MOD0）主催の特別講演会を2度開催し、共著論文25本、大学院生派遣9件、国際ワークショップ（CIM02018）の開催、リール大学サテライトオフィスの信州大学への設置等、教育研究の国際通用性の向上に寄与している。（中期計画 4-1-1-2）</p>
--	---

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※	(参考)4年目終了時評価の判定
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
大項目1 教育に関する目標	【3】	達成している 3.38 うち現況分析結果加算点 0.05	【3】
中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】	達成している 3.33	【4】
小項目1-1-1 【1】学士課程においては、全学的な指針のもとで教員・学生同士の人的交流を重視した学士課程教育を展開し、次代を切り拓きグローバルに活躍できる人材を育成する。	【4】	優れた実績を上げている 2.67	【4】
中期計画1-1-1-1(★) 【1-1】全ての新入学生が大学生としての基礎力を身につけるために、主体的な学修姿勢の修得等を促す初年次教育を、ゼミナール形式等により実施する。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画1-1-1-2(★) 【1-2】ミッションの再定義により明らかになった各学部の強み、特色を生かした専門教育や分野横断型の教育を推進するため、アクティブ・ラーニングを活用して主体的な学修を促す組織的体系的な教育課程を全学的に実施する。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-1-1-3(★) 【1-3】グローバル化に対応した各学部独自の教育プログラムや全学部の学生が参加できる教育プログラムを開発し実施するとともに、海外と連携した教育プログラムを実施する。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
小項目1-1-2 【2】大学院課程においては、教育課程の組織的展開を図り、高度専門職業人としての専門的能力に加え、幅広い領域の知識を備えた、現代のグローバル社会で指導的役割を果たしうる人材を育成する。	【4】	優れた実績を上げている 2.50	【4】
中期計画1-1-2-1 【2-1】国内外招へい講師による特別講義、キャンパス横断型講義、分野横断型講義等の実施により、専門分野の深い知識・技能に加え、専門分野近傍の領域の知識が身に付くような教育課程を平成31年度までに編成し、実施する。	【3】	優れた実績を上げている	【3】
中期計画1-1-2-2 【2-2】カリキュラムや成績評価基準、教育研究組織、学修環境、学生支援、入学者数、修了者の進路、博士課程院生の論文発表状況、研究成果に基づく受賞状況等の教育情報を学生や社会に広く公表し、開かれた大学院教育を行う。	【2】	実施している	【2】
小項目1-1-3 【3】成績評価及び卒業・修了認定の更なる厳格化を進め、教育の質を保証する仕組みを整備し、学位授与の方針に合致する人材を輩出する。	【2】	十分に達成しているとはいえない 1.67	【3】
中期計画1-1-3-1 【3-1】GPA等の指標を用いて学修成果を可視化し、その結果を基に授業内容・方法等の改善を行い、教育の質を保証する仕組みを全学的に定着させる。	【2】	実施している	【2】
中期計画1-1-3-2 【3-2】引き続き、学位授与の方針に基づく卒業・修了認定を厳格に行い、その厳格性を全学的に検証する。	【2】	実施している	【2】

信州大学

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※	(参考)4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中期計画1-1-3-3 <b>【3-3】</b> 長野県における教員養成の拠点機能を果たすため、長野県の教員として求められる資質・能力の育成を反映させたカリキュラムや就職指導体制を構築し、長野県内小・中・特別支援学校の正規の新規採用者における本学出身者の占める割合について、第2期中期目標期間の47%を、第3期中期目標期間中に60%に引き上げることを目指し、教育学部卒業生に占める教員就職率を、第2期中期目標期間中の71%から向上させるとともに、教職大学院修了者の教員就職率は90%を確保する。	【1】	十分に実施しているとはいえない	【1】	
<b>中項目1-2</b> <b>教育の実施体制等に関する目標</b>	【3】	達成している	3.00	【3】
<b>小項目1-2-1</b> <b>【4】</b> 多分野の教員が所属する学術研究院を活用して教員を配置し、効果的な教育プログラムを展開するとともに、教育企画機能及び教育実施機能の充実により、教育の質を向上させるシステムの高度化を図る。	【3】	達成している	2.25	【3】
中期計画1-2-1-1(★) <b>【4-1】</b> 多分野の教員が所属する学術研究院を活用し、学系を超えた学内の人的教育資源を有効活用し、教育プログラムを柔軟に提供できる体制を平成31年度までに構築する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】
中期計画1-2-1-2 <b>【4-2】</b> 実践的指導力を育成・強化するため、学術研究院教育学系の教員について、第2期中期目標期間において約20%であった学校現場で経験を有する人員の割合を、平成33年度末までに40%を確保する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-2-1-3 <b>【4-3】</b> 教育の質の向上を図るため、高等教育研究センターを中心として教学関連IRのデータの分析を行う体制を平成31年度までに構築する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-2-1-4 <b>【4-4】</b> 主体的学修を促す教育改善を行うため、平成30年度までに、全教員が参加する授業改善のためのFDを実施する。	【2】	実施している		【2】
<b>小項目1-2-2</b> <b>【5】</b> 主体的学修を促すため、教育・学修環境の整備を実施し、教育の質を向上させる。	【3】	達成している	2.00	【3】
中期計画1-2-2-1 <b>【5-1】</b> 主体的学修を促すために、図書館を始めとするラーニング・コモンズ等の学修環境の活用や学事暦の見直し等の制度の整備を平成31年度までに行う。	【2】	実施している		【2】
<b>中項目1-3</b> <b>学生への支援に関する目標</b>	【4】	上回る成果が得られている	4.00	【4】
<b>小項目1-3-1</b> <b>【6】</b> 学生の多様なニーズに対応したきめ細かな支援を実施し、学生に充実したキャンパスライフを提供する。	【4】	優れた実績を上げている	2.50	【4】
中期計画1-3-1-1 <b>【6-1】</b> 学生の主体的学修を支援するため、アカデミック・アドバイザー等を活用し、学士課程における学修支援体制を平成31年度までに充実する。	【2】	実施している		【2】
中期計画1-3-1-2 <b>【6-2】</b> これまでに引き続き、学生に対する経済的支援、就職支援、障がいのある学生への支援に継続的に取り組むとともに、課外活動支援について、新たな仕組みを平成31年度までに構築する。	【3】	優れた実績を上げている		【3】



中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※	(参考) 4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
<b>中項目1-4</b> <b>入学者選抜に関する目標</b>	<b>【3】</b>	達成している	3.00	<b>【3】</b>
小項目1-4-1 <b>【7】</b> 入学者受入方針で求める人材を適正に選抜するための改革を進める。	<b>【3】</b>	達成している	2.00	<b>【3】</b>
中期計画1-4-1-1 <b>【7-1】</b> 大学入学希望者学力評価テスト(仮称)の導入に伴い、入学者受入方針を見直し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・総合的に評価する入学者選抜体制を、平成32年度までに整備する。	<b>【2】</b>	実施している		<b>【2】</b>
<b>大項目2</b> <b>研究に関する目標</b>	<b>【5】</b>	顕著な成果が得られている	4.30 うち現況分析結果加算点 0.30	<b>【5】</b>
<b>中項目2-1</b> <b>研究水準及び研究の成果等に関する目標</b>	<b>【4】</b>	上回る成果が得られている	4.00	<b>【4】</b>
小項目2-1-1 <b>【8】</b> 独創的研究の基に本学の強みや特色である「エネルギー複合材料」、「繊維・ファイバー工学」、「水浄化・水循環再利用」、「生命科学」、「山岳科学」の分野からなる先鋭領域融合研究群を中心に、イノベーション創出に向けた研究を推進し、社会の持続的発展に貢献する。	<b>【4】</b>	優れた実績を上げている	2.50	<b>【4】</b>
中期計画2-1-1-1(★) <b>【8-1】</b> 研究推進戦略に基づき、研究者が自由な発想による研究に取り組めるよう、科学研究費助成事業に関して、不採択であっても研究を継続し再度の申請そして採択へとつなげるための研究費支援、アドバイザー等の研究支援にかかる事業を実施し、科学研究費助成事業申請資格を有する全ての教員のうち、採択課題の保有者の割合を平成27年度より向上させる。	<b>【2】</b>	実施している		<b>【2】</b>
中期計画2-1-1-2(★)(◆) <b>【8-2】</b> 先鋭領域融合研究群を中心に世界的な研究を推進し、世界水準の国際教育研究拠点を形成するために、優れた若手研究者をRising Star教員に認定し育成するとともに、学術研究院の学系や先鋭領域融合研究群の各研究所を超えた研究分野(体内埋め込み型歩行アシストサイボーグ技術の開発等)の異種融合(クロス・ブリード)により新たな研究領域の創生に挑戦し、論文数や研究成果に基づく受賞状況等が考慮された定期的な外部評価により研究所の見直しを行う。	<b>【3】</b>	優れた実績を上げている		<b>【3】</b>
<b>中項目2-2</b> <b>研究実施体制等に関する目標</b>	<b>【4】</b>	上回る成果が得られている	4.00	<b>【4】</b>
小項目2-2-1 <b>【9】</b> 研究者が研究を円滑に実施する体制を構築し、研究の質を向上させる。	<b>【4】</b>	優れた実績を上げている	3.00	<b>【4】</b>
中期計画2-2-1-1 <b>【9-1】</b> 先鋭領域融合研究群を中心に、研究活動に必要な設備・環境を設備整備マスタープラン等に基づき計画的に整える。	<b>【3】</b>	優れた実績を上げている		<b>【3】</b>
中期計画2-2-1-2 <b>【9-2】</b> リサーチ・アドミニストレーションセンター等の機能充実と、インキュベーション施設の活用強化により、基礎から応用までの総合的な研究推進支援体制を平成32年度までに構築する。	<b>【3】</b>	優れた実績を上げている		<b>【3】</b>

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※	(参考)4年目終了時評価の判定	
中期目標(中項目)					
中期目標(小項目)					
中期計画					
大項目3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標		【4】	上回る成果が得られている	3.50	【4】
		なし	—	—	なし
小項目3-1-1 【10】地域の知の拠点として大学の機能強化を図り、地域の諸課題の解決及び地域を支える人材育成等を行い、地域の活性化につなげる。		【4】	優れた実績を上げている	3.00	【4】
中期計画3-1-1-1(★) 【10-1】「地域社会を創造する大学」として、信州の地(知)を最大限に生かす地域志向型研究の学内重点化により、地域との対話を通じて大学のシーズと地域社会の課題・ニーズをマッチングさせた共同研究を実施するとともに、全学生を対象とした地域志向教育カリキュラムの導入を実施する。また平成25年度に採択された地(知)の拠点整備事業で開発した地域人材育成プログラム「地域戦略プロフェッショナル・ゼミ」を活用した社会人教育により、地域課題解決型人材の育成に貢献する。		【3】	優れた実績を上げている		【3】
小項目3-1-2 【11】イノベーションの創出と社会の持続的な発展のために、産学官連携や社会貢献を通じた活動を展開する。		【3】	達成している	3.00	【3】
中期計画3-1-2-1 【11-1】産学官・社会連携推進機構の活動を強化するとともに、「世界の豊かな生活環境と地球規模の持続可能性に貢献するアクア・イノベーション拠点(COI拠点)」等の産学官連携拠点を核にして、社会課題を解決する共同研究や受託研究、社会実装に向けた技術移転を増進し、課題解決型人材を育成する。		【3】	優れた実績を上げている		【3】
大項目4 その他の目標		【3】	達成している	3.00	【3】
中項目4-1 グローバル化に関する目標		【3】	達成している	3.00	【3】
小項目4-1-1 【12】グローバル化する社会に対応するため、本学の教育研究の国際通用性を向上させる。		【3】	達成している	2.50	【3】
中期計画4-1-1-1(★) 【12-1】グローバル化に対応する全学的な教育を推進するため、海外派遣学生及び正規留学生を増加させる体制の整備を行うとともに、グローバル教育科目を平成31年度から全学的に展開する。		【3】	優れた実績を上げている		【2】
中期計画4-1-1-2 【12-2】研究成果等の国外への発信を促進するとともに、海外研究機関への渡航及び海外研究機関からの研究者招へいに対する支援を拡充する。		【2】	実施している		【2】

- ※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。  
 (★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)  
 (◆):文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」  
 (\*):新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

$$\left( \begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「教育に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left( \begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)、} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

現況分析:「教育」

【研究】 達成状況評価

$$\left( \begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「研究に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left( \begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)、} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

現況分析:「研究」

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。  
 なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。